

矢崎製作所様より

競技用電気自動車

アルミホイール貰い受ける

「鈴鹿大会での活躍を期待」

鈴鹿大会での13連覇期待

矢崎製作所

OIDE長姫高原動機部に部品

飯田市羽場権現の金属加工業矢崎製作所(矢崎孝弘社長)が5日、飯田OIDE長姫高校原動機部に競技用電気自動車のアルミホイールを贈った。同部は寄贈のホイールを装着したマシンで電気自動車の大会「Ene-1 SUZUKAチャレンジ」(21日・三重県鈴鹿市)に出場する。

同社が仕上げを担当。このほど完成した。同部のスponサーを務める同社は8年

の予定で、高校生部門の13連覇に挑む。2023年から同部の生徒延べ8人が同社へ4回ほどインターンシップに訪れ、実際に加工や検査を体験する。

新ホイールは、従来よりもスポーツの本数を増やし、さらに厚みを増すことで耐久性を向上させた。

熊谷部長は「先輩

が部長の熊谷健太さん(17)と、部員の小川隼橙さん(同)に

「素晴らしい活躍を

守っていってほしい」とアルミホイールを手渡し激励した。

新ホイールは、従

来よりもスポーツの

本数を増やし、さら

に厚みを増すことで

耐久性を向上させ

た。

先輩部員の電気自動車への情熱を引き継いだ部品を携え、今年最後のレースに臨む。贈呈式が同校で開かれ、矢崎社長



完成したアルミホイールの贈呈式

Ene-1 SUZUKAチャレンジ 高校生部門13連覇に挑む

原動機部

(十一月二十三日 大阪府岸和田)

2025エコデンレース全国大会

充電池部門

総合 準優勝、3位入賞

OIDE長姫高

総合2、3位入賞果たす

原動機部がエコデン大会に出場

飯田OIDE長姫
高校原動機部は、11月23日に大阪府岸和田市で開かれた「2025エコデンレース全国大会」の充電池部門で総合2位となりました。電池を動力に規定時間内での周回数を競つた。部長の熊谷漣太さん(2年)は「優勝したかったが、チー

ム全体としては判断によくレースに臨めていた」と振り返った。単三乾電池10本(12V)を使用したス全国大会」の充電池部門で総合2位となりました。電池を動力に規定時間内での周回数を競つた。部長の熊谷漣太さん(2年)は「優勝

間にで53周を走り2位、「WISDOMα」が52周で3位だつた。WISDOMのドライバーを務めた熊谷部長は「少し残念だったが、チームとして後半巻き返す判断は当たつたと思

う」と語った。3位だった仲田晴哉さんは「事故なくクリーンに走り切ること

たところは経験不足が出た」と話した。同部は21日、三重県鈴鹿市の鈴鹿サーキットで開かれる電気自動車大会「En

e-1 SUZUKIチャレンジ」に出場し、高校生部門



表彰台で健闘をたたえ合うOIDE長姫原動機部

高校2年生対象

飯田職業安定協会主催 企業説明会

2025年(令和7年)12月12日 金曜日

南 信 州 新 聞



地元の企業を 知る機会に

地元企業知る機会に

飯田職業安定協会は11日、高校2年生を対象にした企業説明会を飯田市座光寺のエス・バードで開いた。飯田下伊那地域の6校から約500人が参加。多様な業種の地元企業84社が、協会は高校3年生向けの企業説明会を開いているが、高校生の早い時期から地元企業を知る機会をつくり、来年の就職活動や進学後の進路選択に役立つことを目的としている。

決定に役立てもら
うと、2022年
から2年生向けの説
明会も開いている。
深刻な人手不足で
若手の人材確保への
動きが強まる中、定
数の84を大幅に超え
る120社から応募
3社のブースを回つ
があり、参加企業は
抽選で決めた。
午前の部には飯田
OIDE長姫高校の
は他の5校の希望者
が参加。生徒たちは
1クール25分間で計

パンフレットを用いて理念や仕事の内容を説明。自社製品を紹介しながら、自社の特徴や強みをアピールし、福利厚生の充実に取り組んでいたことなども紹介した。生徒たちは事業者の話に耳を傾け、職場環境を聞き取り、職場環境などについて熱心に質問していく。

就職を考えているが、違う業種も回つてみたい」と話した。

説明会に先立ち、
協会は飯田O-TIDE
長姫高校で3日間、
事前授業も実施。計
15社が同校に出向き
自社を紹介した。協
会の担当者は「地元
に魅力ある企業がた
くさんあることを早
い段階で知つてもら
い、若者の地元就職
につなげたい」と話
していた。

企業はモニターを

た。電気系の会社に

地域を探究する「地域人教育」

m-i-n-i 橋北イルミネーション

たくさんの中の橋北の魅力を広めたい

橋北の魅力広めたい

飯田OIDE長姫高校の生徒が飯田市馬場町の旧飯田測候所で「m-i-n-i 橋北イルミネーション」を開いている。

昨年まで住民が続けてきた冬の風物詩を継続させ、電飾で幻想的に彩つている。

住民にインタビューをする中で、旧測候所でのイルミネーションを続けてきた地元有志の橋北面白俱楽部が高齢化や人手不足で活動を休止したことを見たことを知り、「若い力で人が集まる場所をつくり、地区的魅力を広めたい」とイルミネーションを始めたのは商業科の生徒10人。地域を探究する「地域人教育」の中で橋北地区を担当し、住民と交流しながら地区の課題を学んできた。



クリスマスツリーとイルカ

イルミネーションを始めたのは商業科の生徒10人。地域を探究する「地域人教育」の中で橋北地区を担当し、住民と交流しながら地区の課題を学んできた。公園に約10ヶ所、人通りが少ない地区の計6種類を設置。敷地内の

OIDE
長姫高生

イルミネーション継続



金色のトンネルもつくった

金色のアーチを設置した。クリスマスに合わせてツリーを飾り、その中に2頭のイルカを置いた。ベンチの上部にライトで藤の花をつくった。測候所の建物にはプロジェクションマッピングも投影し、生徒のデザインをもとにWebliit(同市上郷黒田)が制作した。

発起人の秋元真之介さん(18)は「若者の力でたくさんの中の橋北の魅力を広めたかった。生徒の思いを感じてもらえた」と話している。



OIDE長姫高の地域人教育成果発表会

飯田市、松本大学の協力を得て
市内各地区をフィールド
に課題解決に取り組む

OIDE長姫高

地域での学び、成果を発表

商業科の「地域人教育」

飯田OIDE長姫
高校商業科が飯田市
や松本大学の協力を
得て取り組む「地域
人教育」の成果発表
会が23日、飯田市鼎
文化センターであつ
た。市内各地区をフ
ィールドに課題解決
などに取り組んだ3
年生78人が、活動を
共にした地域住民ら

を前に経過や成果な
どを発表した。
地域人教育は高校
生が地域理解を深
め、地域での生き方
を考え、郷土愛を育
み、地域活性化や社
会に貢献できる人材
の育成を目的とした
教育プログラム。3
者のパートナーシッ
プ協定により、前身

の飯田長姫高校時代
から今年で14年目を
迎えた。
この日は市内7地
区と全市などで活動
を展開した3年生の
計8のグループが発
表した。

このうち、川路地
区をテーマにしたグ
ループは、川路の魅
力を発信する方法と

して季節を感じても
らう「旅行プラン」
を考えた。
地区住民への聞き
取りから、地区の歴
史や魅力を知り、住
民の「川路を大切に
したい」という思い
をひしひしと感じ
た」とする一方で、
「若い世代には川路
の魅力方が伝わってい
ないと実感した」と
振り返った。

実際に生徒たち

は、天龍峡やそらさ

ー語り、「来年、(地域人

んぼ天龍峡を巡り、
ブルーベリー狩りや
天竜ライン下りなど
も体験。地域の魅力
に肌で触れた。同時
に、地元住民より旅
行プランの作成を思
いついた。

季節ごとに体験し
てもらえるように

「春プラン」と「秋

プラン」を作り、何
度も足を運んでもら
えるようにした。

代表生徒は「実際

に旅行プランを実行

することができなか

ったのは残念だが、

活動の成果として残

すことができた」と

あれば、ぜひ実施し

てほしい」と後輩に
託した。

地域人教育発表会

商業科